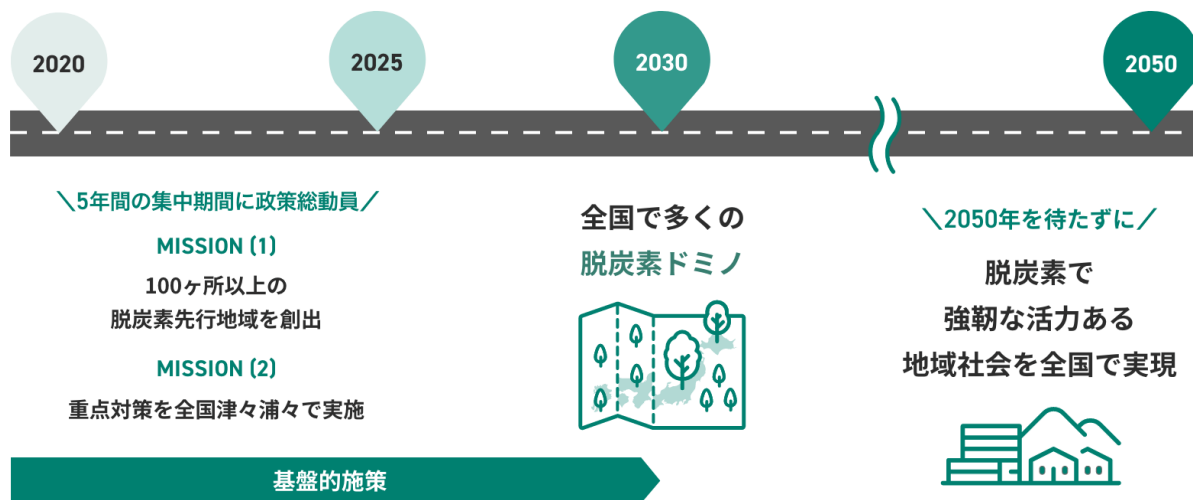


環境省が示す脱炭素社会実現の為のロードマップ紹介

カーボンニュートラル実現に向けて

環境省HPから

「脱炭素ドミノ」で重点対策を全国に伝搬



2050年カーボンニュートラルの実現のために、革新的な技術の開発とその早期の社会への実装は重要です。それとともに、現時点で活用可能な技術を最大限に活用してすぐに取り組む始めることも必要不可欠です。そこで『地域脱炭素ロードマップ ～地方からはじまる、次の時代への移行戦略～』を推進しています。地域のすべての方が主役で、今から脱炭素へ「移行」していくための行程と具体策を取り纏めています。

これから5年間の集中期間に政策を総動員し、(1)少なくとも100か所の脱炭素先行地域を創出(2)重点対策を全国津々浦々で実施し『脱炭素ドミノ』により全国に伝搬させていくことを進めています。

現在、脱炭素先行地域は第4次募集が、さる8月に終了し審査中です。その前の第3次募集時点で全国32道府県83市町村の**62提案**が選定されています。なお、第5次募集は令和6年2月頃を予定されており、ぜひ島原市も名乗りをあげられないものかと願っています。



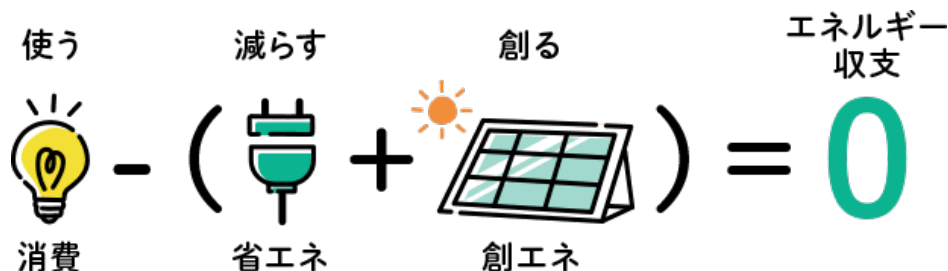
<特集>

ZEH、V2Hとは

2023年10月1日から島原カーボンニュートラルコンテスト2023！を開始しています。一般の部のテーマである「地球温暖化対策に向けた住宅・事務所・工場での導入事例」でZEH(ゼロエネルギーハウス)とV2H(Vehicle to Home)をあげています。これって何なの？という疑問に応え、本特集で“ZEH”と“V2H”について説明いたします。

ZEH(ゼロエネルギーハウス)とは

ZEHとは、net Zero Energy House(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の略語で、「エネルギー収支をゼロ以下にする家」という意味になります。つまり、家庭で使用するエネルギーと、太陽光発電などで創るエネルギーをバランスして、1年間で消費するエネルギーの量を実質的にゼロ以下にする家ということです。



エネルギーの量をゼロにするとは？

ZEHとは、「快適な室内環境」と「年間で消費する住宅のエネルギー量が正味で概ねゼロ以下」を同時に実現する住宅

高断熱で
エネルギーを極力
必要としない
(夏は涼しく、冬は暖かい住宅)

高性能設備で
エネルギーを上手に使う

エネルギーを創る



具体的なZEH実現方法

<特集>

ZEH、V2Hとは

ZEH住宅の4つのメリット

(1) 光熱費削減につながる

- ・ 無駄な電力を生み出さない省エネシステム・断熱の強化・太陽光発電による自家発電によって、光熱費が削減されます。また、太陽光発電で余った電力を電力会社に売電し、収益も得られます。

(2) 災害時用に非常電力を備えられる

- ・ 生み出した電力を蓄えておける蓄電池を設置すれば、停電や自然災害時の非常電力をまかなえます。また、電気自動車の充電も可能です。

(3) 高く売却できる可能性がある

- ・ 住宅の省エネに対する取り組みを評価する指標の一つに、一般社団法人「住宅性能評価・表示協会」の「BELS」という認証制度があります。ZEH住宅は、BELSで高評価を得られるため、資産価値が高く見積もられ、将来売却する際にも高値で売れる可能性があります。

(4) ヒートショックを起こしにくい

- ・ ZEH住宅には、夏は涼しく冬は暖かい快適な環境で過ごせるメリットがあります。また、断熱性の高い住環境により、部屋同士の気温差が小さいことも特徴です。特に冬の寒い季節は、急激な温度変化によって引き起こされる脳卒中や、心筋梗塞などのヒートショックの軽減につながります。

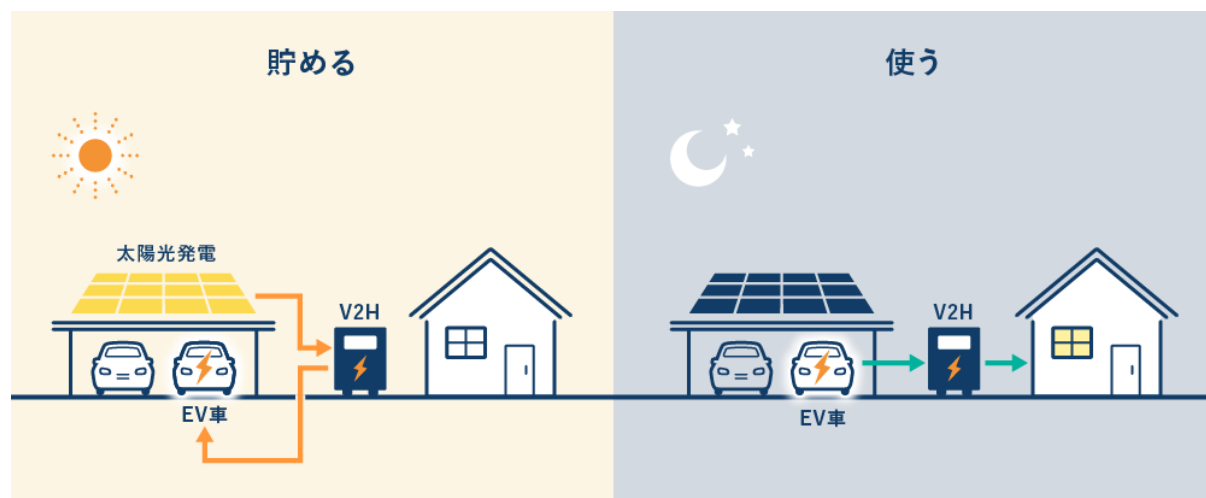
<特集>

ZEH、V2Hとは

V2H(Vehicle to Home)とは

V2H(Vehicle to Home)とは、「車から家へ」を意味し、電気自動車のバッテリーに蓄えた電気を住宅に給電して有効活用するシステムのことです。電気自動車を家庭用蓄電池に変えるものです。

電気自動車は、自宅などのコンセントから充電する(電気を蓄える)ことは可能ですが、家庭に給電することはできません。V2Hを利用することで電気自動車を蓄電池として利用できるようになり、自宅に給電できるようになります。災害時などで電力が途絶えた際にV2Hを使えば、いざという時に頼りになるシステムです。

V2Hのメリット

- ・災害時の停電に非常用電源として使用できる
- ・電気代を節約できる
- ・家庭用蓄電池より蓄電容量が大きい
- ・EVやPHVの充電が家庭用コンセントより短時間
- ・補助金を受けることができる

V2Hの注意点

- ・V2H非対応のEV車は使えない(購入時要チェック)
- ・車を駐車していないときは蓄電器として使えない



SCNの活動

【島原水素蓄エネルギープロジェクト連携会議参加報告】

令和5年9月29日(金)13:30島原市役所2A会議室にて「島原水素エネルギープロジェクト連携会議」が開催され、当協議会から理事長の林田と伊東の2名で参加しました。

[会議の内容]

- (1) 島原市長のあいさつ(代読)
- (2) 島原市の現状と今後
島原市役所 市民部 環境課 北島氏による報告(資料も配布)
- (3) 「島原水素エネルギープロジェクト」の目標について
{長崎総合科学大学b客員研究員}
{熊本県立大学 環境共生学部 学部長}
石橋康弘教授による趣旨説明のプレゼンテーション (プレゼン資料配布)
- (4) 質疑応答



島原市プロジェクトメンバー



長崎総合科学大学参加メンバー



石橋教授によるプロジェクト趣旨説明講演写真



会議参加者

＜最近のトピックス＞

・パナソニック「窓と一体のペロブスカイト太陽電池」5年以内の量産化目指す



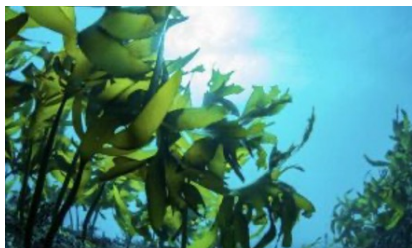
パナソニックホールディングスは、「ガラス建材一体型ペロブスカイト太陽電池」のプロトタイプを開発し、5年以内の量産化を目指した技術検証を含めた1年以上にわたる長期実証実験を開始した。

・トヨタとJAF、トラックで水素運び供給する試作車公開



2023年9月2日にスーパー耐久シリーズ2023のもてぎ大会にてトヨタとJAFはFCEVなどの水素欠などに対応するための「給水素トラック」のコンセプトモデルを世界初公開。

・海洋生物による二酸化炭素吸収『ブルーカーボン』注目！



ブルーカーボンとは、海洋および沿岸の生態系によって吸収および蓄積される炭素のこと。これらの生態系は、二酸化炭素を大量に吸収し、炭素を長期間蓄積する能力があり気候変動対策の1つとして注目を集めている。

・米政府、期待の新エネルギー「地中水素」採掘に助成金投入



米バイデン政権は、二酸化炭素(CO2)を排出しないカーボンフリーなエネルギーとして、地下深くの自然なプロセスで発生する「地中水素(geologic hydrogen)」の掘削を支援する助成金プログラムを開始した。

・日本初「水素燃料の旅客船」進水



日本初となる“水素とバイオディーゼルを燃料とする旅客船「HANARIA」が、商船三井テクノリード出資のMOTENA-Sea社発注、広島の本瓦造船で建造され、進水式が行われました。

・パナソニックHD、電気使わずに水素生成する装置を開発



パナソニックホールディングス(HD)は電気を使わない水素生成装置の研究を始め、2030年に試作機の提供を目指すとのこと。

・島原カーボンニュートラルコンテスト2023!の案内



島原カーボンニュートラル推進協議会主催、島原市・島原市教育委員会共催で『島原カーボンニュートラルコンテスト2023!』を開催します。

・三菱重工、世界初の水素製造から発電利用まで一貫実証可能「高砂水素パーク」本格稼働



三菱重工業は、高砂製作所(兵庫県高砂市)水素の製造から発電までにわたる技術を世界で初めて一貫して検証できる「高砂水素パーク」を本格稼働しました。

・住友金属鉱山、リチウムイオン電池レア金属回収技術を発表



住友金属鉱山はリチウムイオン電池からリチウムやニッケル、コバルトなどのレア金属類を利用できる高純度レベルで回収する技術を確立しパイロットプラントを稼働させたことを発表しました。レア金属のリサイクル資源製品へのニーズはとも高く注目されている。

NPO法人島原カーボンニュートラル推進協議会の運営は、活動を応援してくださる個人や企業、団体の寄付やご協賛によって行われます。会の趣旨をご理解頂き、協賛・参加等の応援で、カーボンニュートラルで実現する素晴らしい島原の未来をご一緒に実現しましょう

◆協賛会員：【島原市役所】【長崎三菱自動車(株)島原支店】【(株)福栄】【林田建工】

※参加申込や詳細は下記のSCNのホームページ(QRでスマホでも提供)まで

NPO法人島原カーボンニュートラル推進協議会 理事長 林田勉
〒859-1404 長崎県島原市有明町湯江丁2 9 3 2
TEL : 050-5211-5530
Mail : info@scn-pc.jp、HP : https://www.scn-pc.jp

